雌阿寒岳防災かわら版

阿寒町

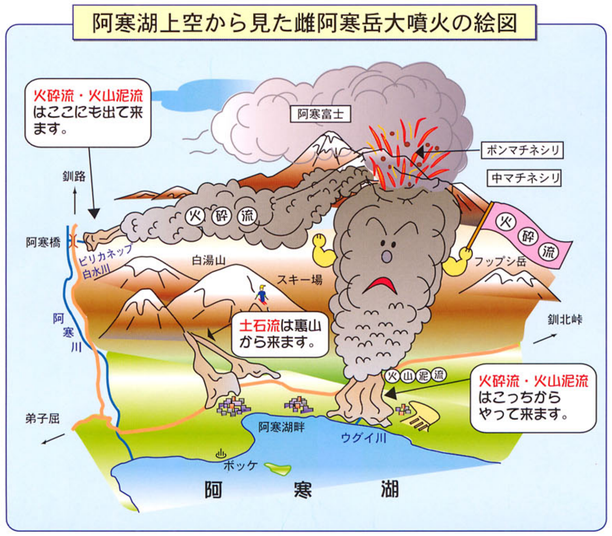
第１号（町内家庭向け保存版）

このマップの目的

1996年、1998年と最近２回の小噴火を起こした雌阿寒岳は、私たちの町にとっては、温泉や湖をつくり、すばらしい風景と自然の恵みを産んでくれた母なる山です。これからも私たちがこの山の恩恵を受けながら暮らしていくためには、この山のことをもっとよく知っておくことが大切です。「雌阿寒岳防災かわら版」の第１号は、アンケートでみなさんの要望が多かったポスター型とし、雌阿寒岳をいつも身近に感じられるよう、各家庭での利用を考えてつくりました。町では、これからも新しい情報、子供向け、観光客向けなど、形をかえながら、マップをつくっていきたいと考えています。

１９９９年８月作成　阿寒町

阿寒湖上空から見た雌阿寒岳大噴火の絵図



阿寒湖畔から見た雌阿寒岳

湖畔付近から見えるのは“中マチネシリ”です。“中マチネシリ”の山頂部は平らで大きな火口があります。その後ろに雌阿寒岳で一番高い“ポンマチネシリ”の頂上が、ちょこっと顔をのぞかせています。

足寄町のオンネトーから見た雌阿寒岳

みなさんがよく“雌阿寒岳”と呼んでいるなかの山は“ポンマチネシリ”、または“阿寒富士”です。オンネトーは、これらの山から流れ出た溶岩で、川がせきとめられてできたものです。最近の噴火（1996年・1998年）は、“ポンマチネシリ”で起きています。

わが家の避難場所は！？

家族で確認しておきましょう！

＜右のハザードマップに番号で位置を示してあります。＞

番号	避難場所名	電　話	番号	避難場所名	電　話
①	阿寒小学校	66-3252	⑭	西徹別多目的研修集会所	68-7126
②	阿寒中学校	66-3351	⑮	布伏内小学校	69-2204
③	阿寒町総合福祉センター	66-3663	⑯	布伏内中学校	69-2137
④	阿寒町公民館	66-2222	⑰	布伏内コミュニティセンター	69-2111
⑤	阿寒町農業者トレーニングスポーツセンター	66-3653	⑱	仁々志別小中学校	60-8021
⑥	橋南センター	66-2010	⑲	仁々志別多目的センター	60-8024
⑦	旭町寿の家	66-2009	⑳	東栄集会所	-
⑧	北会館	66-3811	㉑	阿寒湖小学校	67-2673
⑨	下舌辛集会所	66-2855	㉒	阿寒湖中学校	67-2529
⑩	クンチョウの家	66-2361	㉓	阿寒湖幹福祉センター	67-2427
⑪	中徹別小学校	68-7131	㉔	阿寒湖幹老人憩の家	67-2110
⑫	徹別多目的センター	68-7037	㉕	若草会館	67-2016
⑬	上徹別福祉会館	68-7248	㉖	阿寒湖幹トレーニングセンター	67-2162

阿寒湖畔の緊急一時避難所・・・一時的な避難所です。

注意：避難場所に間に合わない場合など、一時的に避難することができます。
一般客に迷惑のかからぬ様、エチケットを守ってください。

番号	施設名	電　話	番号	施設名	電　話
①	ニュー阿寒ホテル	67-2121	⑥	阿寒ビューホテル	67-3131
②	阿寒グランドホテル	67-2531	⑦	ホテル山水	67-2311
③	ホテル御前水	67-2031	⑧	阿寒観光ホテル	67-2611
④	ホテル阿寒湖荘	67-2231	⑨	阿寒ロイヤルホテル	67-2421
⑤	ホテルエメラルド	67-2011	⑩	阿寒湖バスセンター宿泊部	67-2655

- 噴火の大きさによっては危険となる避難場所もありますので、役場の指示にしたがって避難あるいは移動してください。
- 大きな噴火の危険がある時には、阿寒湖畔地区は全員退去し、阿寒本町あるいは近隣市町村への避難が必要となる場合もあります。
- ハザードマップを見て危険なところを覚え、避難の時にはそのような場所を通らないようにしましょう。

発行・問い合わせ先：阿寒町 総務課総務係　　0154-66-2121
監修：勝井 義雄（北海道大学名誉教授）、宇井 忠英（北海道大学教授）
資料提供：北海道釧路土木現業所　製 作：国際航業株式会社

雌阿寒岳ハザードマップ

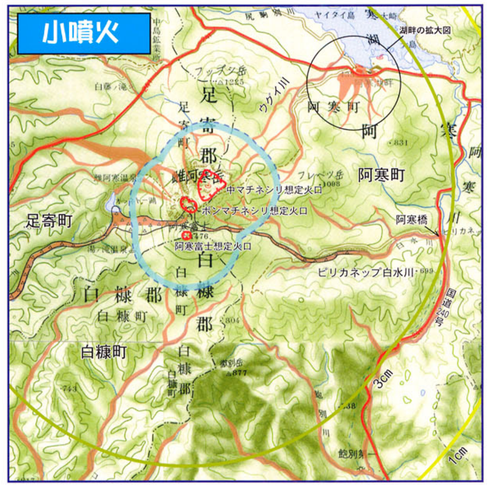
マチネ・シリ（山である・山）が怒るとき・・・

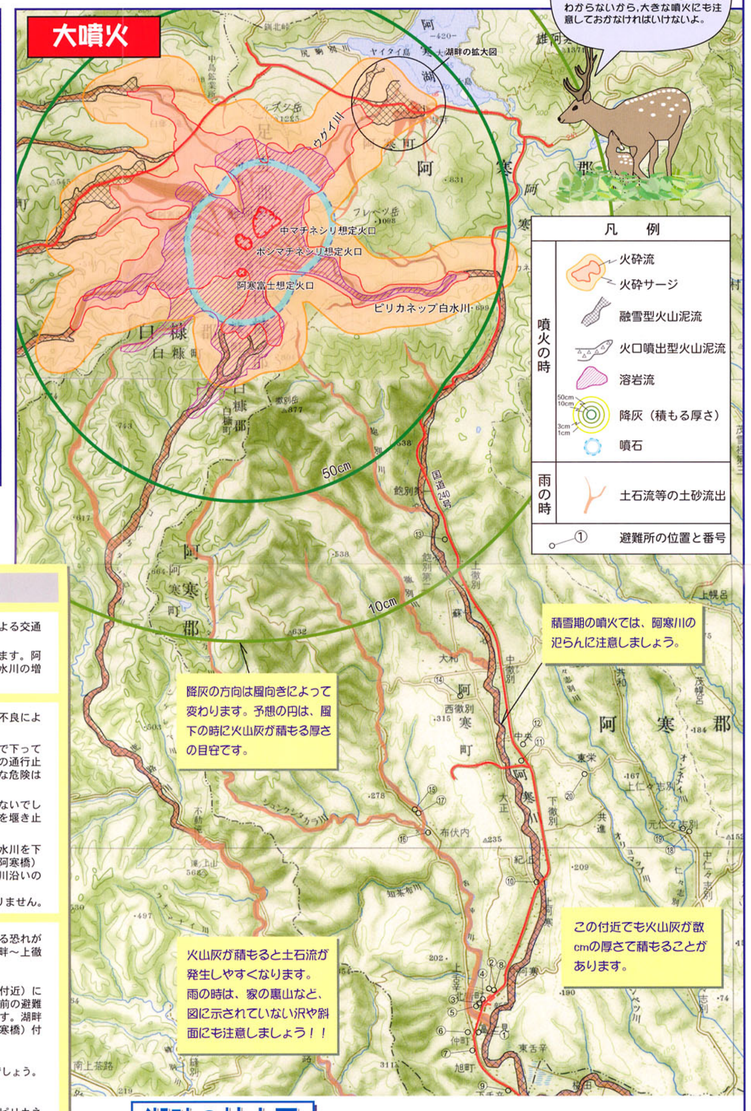
雌阿寒岳はいくつもの山からできています。そのうち、今後、噴火を起こしやすい３つの山（“中マチネシリ”、“ポンマチネシリ”、“阿寒富士”）が噴火したときに起こる現象と危険な場所を予想したものが、このハザードマップです。「大噴火」は過去１万２千年の噴火の歴史から、規模を最大に見積ったもの、一方、「小噴火」は最近千年の活動から起こりやすい規模を想定したものです。過去には実際に、千年ほど前に溶岩流が、古くは３千年に一度は火砕流が発生しており、ここで想定した大と小だけでなく「中噴火」も起こります。ハザードマップの危険区域はこうした様々な噴火の目安を示したものです。

ごく小さな噴火（1998年噴火 1996年噴火）← 小 ―― 噴火の大きさ ―― 大 → 想定した噴火よりさらに大きな噴火!!

数～十数年に一回　　数十～数百年に一回　　数千年に一回

雌阿寒岳では、火砕流が約6,000年前、9,000年前、12,000年前に発生したんだよ。大噴火はめったに起こらないけど、それがいつ起こるかはわからないから、大きな噴火にも注意しておかなければいけないよ。





どこで・どんな災害が…？

小噴火

- 降灰は、山麓で厚さ数cm以下です。火山灰の吸引による気管障害や視界不良による交通障害に注意します。
- 火口噴出型の火山泥流が発生することがありますが、おもにオンネトーへ下ります。阿寒町側はあまり影響ありませんが、国道240号の阿寒橋では、ピリカネップ白水川の増水に注意します。

中噴火

- 降灰は、山麓で厚さ数cm程度になります。火山灰の吸引による気管障害や視界不良による交通障害に注意し、所によっては灰の除去を行います。
- 中マチネシリ噴火の時、火砕サージがウグイ川・ピリカネップ白水川の途中まで下ってきます。直接の被害はありませんが、危険度が高まるので湖畔での避難や国道の通行止が考えられます。ポンマチネシリや阿寒富士噴火の時は、阿寒町ではこのような危険は少ないでしょう。
- 溶岩流はウグイ川・ピリカネップ白水川沿いに流れ下りますが、直接の被害はないでしょう。避難する余裕はあるので、湖畔や国道で警戒・監視をします。溶岩が川を堰き止めた時には氾らんなどに注意が必要となります。
- 積雪期に火砕流が発生すると、融雪型の火山泥流がウグイ川・ピリカネップ白水川を下ります。湖畔の西部地域でウグイ川が氾らんしたり、ピリカネップでは国道（阿寒橋）を越えて流れることもあります。積雪期に火砕流発生の恐れが出た場合は、川沿いの低い土地では警戒や避難を考えます。

＊「中噴火」の図はありません。

大噴火

- 降灰は、湖畔で厚さ50cm以上、上徹別で10cm、町の中心部でも数cm程度になる恐れがあります。10cm以上積もると、尾根がつぶれるなどの被害が出始めます。湖畔～上徹別では車両の通行は困難になります。
- 中マチネシリ噴火の時、火砕サージが湖畔市街地やピリカネップの国道（阿寒橋付近）に達し、火災を起こします。雌阿寒岳周辺には近づけません！！湖畔地区全域で事前の避難が絶対必要です。ポンマチネシリ噴火でも、火砕サージはピリカネップに達します。湖畔には達しないと考えられますが避難が必要でしょう。ただし、ピリカネップ（阿寒橋）付近が危険ですので釧路方面への国道は通行不可能です。
- 溶岩流はウグイ川・ピリカネップ白水川沿いに流れ下りますが、直接の被害はないでしょう。溶岩が川を堰き止めた時には氾らんなどに注意が必要となります。
- 積雪期に大規模な火砕流が発生すると、融雪型の火山泥流が大量にウグイ川・ピリカネップ白水川を下ります。湖畔の西部地域で広範に氾らんするほか、ピリカネップ白水川からは阿寒川の下流まで流れ下ることも考えられます。湖畔での事前避難はもちろん、阿寒川下流の町内全域で、川沿いの低い土地での警戒や避難が必要です。

大中小噴火共通

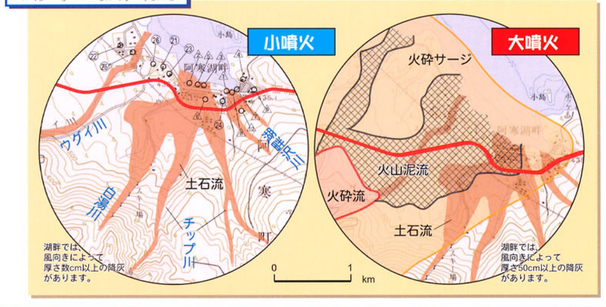
- 雌阿寒岳では、噴石は火口から約２kmの範囲が危険区域と考えられています。オンネトー一方面は注意が必要ですが、阿寒町では人のいる山麓には到達しないでしょう。
- 地震・空振による被害は報告されていませんが、歴史が浅いこともありまったく安全とは言えません。岩屑なだれが発生する可能性は低いと思われますが、もし発生した場合は、火砕流と同じかそれ以上遠くまで土砂・岩石に埋め尽くされることも考えられます。
- 火山灰が数cm以上積もった地域では、少しの雨でも泥や裏山の斜面で土石流やがけ崩れが発生しやすくなります。降灰地域では、雨の時にはその付近の沢・斜面に注意し、大雨が予想される時、あるいは泥水が流れてくるような時には避難します。

噴火のない時

- ふだんでも噴煙（噴気）には、有毒な火山ガスが含まれており、火口近くの登山道や噴気地帯（ポッケ）、温泉でも中毒を起こすことがあります。風のない日の凹地は特に危険です。
- 土石流は、噴火にかかわらず普段でも大雨の時に発生することがあります。湖畔のチップ川と湖畔沢川など、土石流危険渓流に指定されている渓流もありますが、大雨時には、その他の渓流やちょっとした沢地形でも、土石流や土砂の流出に注意する必要があります。

この表は、阿寒町での災害の時期や場所と状況、注意・対応策などをまとめたものです。

湖畔の拡大図



災害に備えて

ふだんから次のようなことを覚えて注意や準備をしておきましょう。

火山噴火のまえぶれ!?

こんな異常現象を見つけたらすぐ通報を！

阿寒町 総務課　(0154) 66-2121
釧路地方気象台 技術課　(0154) 41-4440
警察　110　消防　119

敵を知る…噴火現象

降灰

火山灰や軽石が降り積もる降灰の時は、屋間でも暗くなることがあります。車の通行に注意し、灰を吸い込まないようにしましょう。小石が混じることもあるので、頭にも注意しましょう。

噴石

直径数cm以上、時には1メートル以上の大きな噴石が降って来ます。風の影響をあまり受けず、火口から数km以内の範囲に落下します。コンクリートの屋根にも穴をあけることがあります。

火砕流・火砕サージ

高温の火山灰・石・火山ガスなどが混ざり合って山を下ってくるものを火砕流、石が少ない高温の砂あらし（爆風）を火砕サージといいます。時速100kmを超える場合もあり、温度も数百℃に達するので、発生してからの避難は困難です。ちょっとした山は乗り越えてきて、すべてを焼きつくします。

溶岩流

ドロドロに溶けた溶岩が低い所を流れてきますが、先端部は固まりつつあるのでガラガラと崩れながら押し寄せてきます。
速度が遅いので徒歩でも逃げられますが、家や森は焼かれ、溶岩（岩石）に埋め尽くされてしまいます。

火山泥流

泥・石・水が混ざり合って谷を下ってくるもので、火砕流の熱などで雪が融かされて発生するものを融雪型火山泥流、火口から直接泥流が流れ下るものを火口噴出型火山泥流といいます。時速数十kmに達し、量が非常に多いので、ふもとで広い範囲に氾らんして泥の海と化します。高台に逃げましょう。

土石流

雨によって土砂・石・水が混ざり合って谷を下ってくるものを土石流といい、谷の出口で氾らんし家屋などを壊します。火山灰が積もった所では少しの雨でも土石流が発生しやすくなります。川の近くや谷の出口に近づかないようにしましょう。
（土石流は、ふだんでも大雨の時には発生することがあります。）

その他の災害

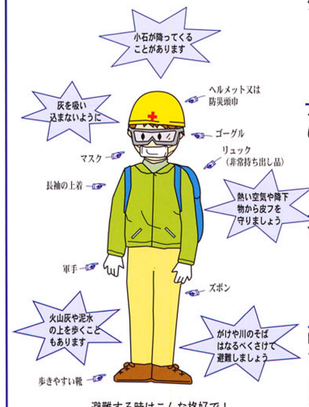
噴火によって山の一部が壊れると、大きな崩れとなって多量の土砂・岩石がふもとに流れ下る「岩屑（がんせつ）なだれ」が発生することがあります。規模の大きな「地震」や、爆発に伴う空気の震えによる「空振（くうしん）」で、建物や窓ガラスに被害がでることもあります。最近、雌阿寒岳で発生している「水蒸気爆発」は、地下のマグマの噴出を含まない小規模な噴火で、わずかな「降灰」や「噴石」がある程度ですが、「マグマ水蒸気爆発」になると、マグマを含むので「火砕流」や「溶岩流」の発生につながる可能性もあります。有毒な「火山ガス」は、ふだんでも谷筋を流れ下ったり、風のない日には凹地にたまったりするので、登山道やポッケ・温泉などでは常に注意しましょう。

非常持ち出し品の準備

◎非常持ち出し品はいつでも持ち出せる場所に備えておきましょう。

もし噴火が始まったら

あわてず、落ち着いて行動しましょう！



避難する時はこんな格好で！

気象台が発表する火山情報に注意しましょう。

最も“危険”な時の「緊急火山情報」“注意”又は“噴火”を知らせる「臨時火山情報」などがあります。

テレビやラジオ、行政機関の広報などを聞いて正しい情報を得ましょう。

どこでどんなことが起こっているのか、このマップで確かめましょう。

デマに惑わされないようにしましょう。

現在の科学技術では、日時や場所を明確に示した噴火予測はできません。

町長から避難勧告などの指示があった場合にはそれに従いましょう。

そんなことが起こるわけない。わが家は大丈夫……と思い込んではいけません。

避難は早目に。明るいうちに。安全な場所へ。

「この地図は、建設省国土地理院長の承認を得て、同院発行の20万分の1地勢図を複製したものである。　（承認番号）平17総複、第1017号」